

左前下行枝 seg7 の比較的長い病変に stent を overlap して留置後、IVUS にて stent 内を観察しその後 IVUS を抜去しようとしたところ stent 内で IVUS がスタックし抜去困難となった症例について検討した。

スタックした原因の一つとしては恐らく overlap させた stent の拡張不全があり、その為に IVUS カテが stent ストラットに引っ掛かりスタックした可能性が考えられた。まずはこのような状況に陥らない為に注意することとしては stent の拡張不全を残さないことがあり、その為には留置した stent をしっかりと高圧拡張する必要があると思われた。又、IVUS の抜去の際には抜去前にイメージコアをしっかりと先端に戻し IVUS カテにこしをもたせること、場合によっては IVUS カテを作動させながら抜去すれば更にしっかりとこしをもたせることが出来、スタックしにくいのではと考えられた。実際にスタックしてしまい抜去不能となってしまった時はとりあえず IVUS カテを押ししたり引いたりしてみるがそれでも抜去不能な時の対処法としてはその時の system によると思われる。本症例では 6Fr のガイドカテを使用をしたとのことであり、ガイドカテ内腔の問題よりそのままでは対処困難である。仮に本症例が 7Fr 以上のガイドカテであればもう一本ワイヤーを cross させ、ワイヤー cross 後には stent strut と IVUS カテとの引っ掛かりを解除する為に、何らかの device を delivery させる。例えば病変貫通用カテなどを通過させることにより引っ掛かりが解除されるのであればそれでも良いし device の通過だけでは解除出来なければ小径バルーンで低圧で拡張することにより解除が期待できると考える。実際、本症例は 6Fr ガイドカテであった為、大腿部より更に穿刺し femoral approach でもう一本ガイドカテをエンゲージさせここからワイヤーを cross させる方法がとられ、その後バルーン拡張し何とか IVUS カテの抜去に成功した。何より重要なことはこのようなトラブルをまず発生させないように注意することであり、又、仮に発生した場合でも無理に IVUS カテを抜去しようとする stent の構造破壊から急性冠閉塞やあるいはガイドカテが deep に engage し冠解離などの発生などの危険性がある為、冷静に対処することが重要であると考えられた。